

「家がいいね」 第246号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2024. 11. 4



秋桜（コスモス）
（1986年 歌詞）
淡紅（うすべに）の秋桜が
秋の日の 何気ない陽溜りに
揺れている
此頃、涙脆くなった母が
庭先でひとつ咳をする

縁側でアルバムを開いては 私の幼い日の思い出を
何度も同じ話くりかえす 独言みたいに小さな声で
こんな小春日和の穏やかな日はあなたの優しさが浸りて来る
明日嫁ぐ私に苦労はしても 笑い話に時が変えるよ
心配いらないと笑った

あれこれと思いついたとっちらいつの日もひとりではなかったと
今更乍ら我儂な私に 唇かんでいます
明日への荷造りに手を借りて しばらくは 楽しみにいたけれど
突然涙こぼし元気で 何度も何度もくりかえす母
ありがとこの言葉をかみしめながら 生きてみます私なりに
こんな小春日和の穏やかな日は もう少しあなたの子供で
いさせてください（山口百恵 作詞作曲 さたまさこ）

10月から在宅の強化型連携が実現しました



当院は在宅療養支援診療所（2名の医師）ですが、病床数193の伊勢ひかり病院の堂本院長や他医師と連携して、機能強化型連携在宅療養支援診療所となりました。また、癌の患者さんの在宅での疼痛緩和を訪問看護ステーションと連携しつつ実施している現状ですので、在宅緩和ケア充実診療所の資格も実現しました。伊勢市の在宅療養が、穏やかで落ち着いた生活と共に実現するよう、今後も努力いたします。

最近の在宅を取り巻く環境は変化しています

明らかな高齢社会の進行です。健康寿命も延びていますが、その後、に長期までの期間が長くなったのが実態です。体制整備の計画も2025年が2040年に繰り越しです。介護や医療の全てが足らなくなる社会です。でも長い余生を過ごす場は何処？と問われたら、圧倒的に自宅希望ですね。足りない中でも何ができると挑む機会が必要です。お互いが繋がる社会を築くため、熱意と慈悲の思いで、今の在宅機能を高めるしかないと考えます。

奈良県の女性僧侶からの贈り物

「よく死ぬよりも、よく生きてね」

よくいきちゃん

病気があってもなくても
欲張りて粹に過ごしながら
自分らしく善く生きよう
そんなふうによく遊ばせたタネは
誰かのよくいきに芽吹きます

年末年始のお願いです

12月21日（土）は、遠藤が出張で外来休診です。在宅は大久保が担当します。年末は12月28日までの、外来診療となります。

12月29日～1月3日休診します。ご注意ください。在宅患者さんには、この期間も対応します。



健診は11月まで（午前に予約で、少数対応）
ワクチン（インフルエンザ・コロナ）も実施中。
（こちらにも 午前に予約で、少数対応です）



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可